

## 適応指導教室（ほっと東海）について

### 1 通級者数（9月2日現在入級手続きを終えている者）

教 室	小学生	中 1	中 2	中 3	計
横須賀教室 武田 基二（教育相談員） 大野 明子（教科指導補助員） 八木 真実（サポーター）	2年…1 5年…1 6年…1	4	7	6	20
上野公民館 深谷 公子（教育相談員） 森田真紀子（教科指導補助員） 坂井 修（サポーター）	5年…1 6年…2	4	3	9	19

### 2 ほっと東海の日課

#### (1) 横須賀教室

9:10～ 9:45 登校・準備（読書など）  
9:50～ 9:55 朝の会（体操・連絡）  
10:00～10:40 学習①  
10:50～11:30 学習②  
11:30～12:00 コミュニケーションタイム  
12:00～13:00 昼食・休憩  
13:00～13:40 学習③  
13:50～14:30 学習④  
14:30～14:55 コミュニケーションタイム  
14:55～ 清掃・帰りの会  
15:00 下校

#### (2) 上野公民館教室

9:10～ 9:45 登校・準備（読書など）  
9:50～ 9:55 朝の会（ストレッチ・連絡）  
10:00～10:40 学習①  
10:50～11:30 学習②  
11:30～12:00 コミュニケーションタイム  
12:00～13:00 昼食・休憩  
13:00～13:40 学習③  
13:50～14:30 学習④  
14:30～14:50 コミュニケーションタイム  
14:55～ 清掃・帰りの会  
15:00 下校

### 3 学習について

- ・個別指導を基本とする。基礎学習をしながら、在学年の学習内容にせまる。
- ・教科書・問題集・資料集などは、個人のものを使用することを基本とする。

### 4 主な行事

#### (1) ねらい

- ・諸活動への意欲を高め、自ら進んで活動を楽しむ気持ちを高める。
- ・2教室の交流を図り、人と交わることの意義に気付かせ、集団の一員としての自覚を高める。又、社会見学や自然との触れ合いを通して、豊かな心を育む。

#### (2) 校外学習

- ・第1回 6月29日(木) 名古屋市科学館
- ・第2回 11月30日(木) やきもの散歩道・セントレア  
フライト・オブ・ドリームズ

- (3) 青空教室 実施日 9月16日(土)～9月18日(月・祝)  
実施場所 国立若狭湾青少年自然の家(福井県小浜市)

#### (4) 交流活動

- ・会食会、クリスマス会、卒業生を祝う会（7月、12月、2月）
- ・スポーツ大会(毎月第1木曜日)・福祉実践教室（11月）
- ・みかん狩り（11月頃） ・出会いの教室（2月）

#### (5) その他

- ・各教室における文化活動（絵画・習字・読み聞かせ（ブックトーク）・干支作り・戦争の話を聞く会・選挙出前講座・作業活動等）
- ・東海市校長会進路研究部会主催の「子どもの自立と未来を語る会」への参加
- ・保護者懇談会（学期に1度）
- ・教育相談員の学校訪問（市内小中学校へ教育相談員が出かけ、不登校児童生徒についての情報交換）
- ・他市町の適応指導教室の見学、交流

### 5 通室の状況・一日の活動

#### 【横須賀教室】

- ・昨年度よりも早いペースで見学・体験者が多く、一日の通級生の数も多い。
- ・午前の通級生は1～2時間の学習時間で帰宅する児童生徒が多い。ただ、保護者や本人と相談したり、呼びかけたりすることによって少しずつではあるが、滞在時間が延びたり通級回数が増えたりする児童生徒もある。
- ・人(異学校・異学年・大人)との交流の場（卓球やゲーム等）を通して、コミュニケーション能力を養おうとしている。
- ・中3の生徒には、進路を見据えながら、学校見学や体験入学を勧めている。
- ・通級生の学力などを考慮して、学習の援助を行っている。
- ・学校や家庭と、「ほっと東海」との連携を密にしている。
- ・学校行事には努めて参加できるように、学校と連絡を密にしている。

#### 【上野公民館教室】

- ・通級生は昨年度も入級していた児童・生徒が多い。
- ・午前か午後に通級し学習している通級生が多く、一日中在室できる通級生は少ない。
- ・個別のニーズに応じた支援を受けることで落ち着いて学習ができている。
- ・中学3年生が多いため、進路先を見据えて前向きに学習に取り組んでいる。
- ・異年齢集団で、卓球やカード遊びをして楽しく交流ができている。
- ・様子を見て個別に相談活動を取り入れ、不安に対する対処の仕方を一緒に考えるようにしている。
- ・小集団の中でも学習できなかつたり、人前で食事ができなかつたりと個別のスペースが必要な児童・生徒が増えてきている。
- ・学校との連携を密にし、通級生の状況に応じて行事や得意な授業への参加を促し、登校支援を行っている。